

## HBe抗原陰性 HBV キャリア妊婦から出生した乳児の自然経過および予防成績について

(分担研究: ウイルス性肝疾患の母子感染防止に関する研究)

田尻 仁 ・ 古座岩宏輔

〈要約〉当科関連7病院の例を対象として、HBe抗原陰性 HBV キャリア妊婦から出生した乳児の自然経過および予防成績を検討した。予防なしの23名では、一過性HBs抗原陽性7名(3名がB型急性肝炎)を認めた。一方、何らかの予防を受けた150名では1名のみB型急性肝炎を認めた。この1例は、HBグロブリン一回投与を受けた例であり、HBワクチンの必要性が示唆された。以上のように自然経過群と予防群とを比べると、予防の有効性は明らかであった。

〈見出し語〉HBe抗原陰性、自然経過、母子感染予防

〈はじめに〉我国の公費負担による HBV 母子感染予防の対象は、母親がHBe抗原陽性キャリアから出生した乳児のみに限られている。しかしHBe抗原陰性の母親からの乳児は約20~30%に一過性の感染(一部は急性肝炎、ごく稀に劇症肝炎)をおこすことが分かっており、これらの乳児も母児感染の予防を積極的に行うべきである。

〈研究目的〉HBe抗原陰性の HBV キャリア妊婦から出生した乳児における HBV 感染の自然経過および母子感染予防の効果を検討する。

〈研究方法〉大阪大学医学部などの7病院の例を対象とした。自然経過を観察したのは、おも

に昭和55年~61年までの乳児であり、昭和61年以降の例は HBIG の 1 回投与あるいは HB ワクチン投与によって予防を行った。出生時から生後12カ月まで1~2カ月毎にHBs抗原、HBs抗体、肝機能(GOT, GPT)を検査した。

〈結果〉表1に予防の有無と予防処置内容を示す。表2に HBV 感染の頻度および GPT 上昇例を示す。GPT が 100 U/l 以上に上昇した8例(①~⑧)の経過を図に示した。そのなかで臨床的に黄疸、発熱などの明らかな急性肝炎を発症した4例について紹介する。症例①: 母親はHBe抗体陽性であったが、予防を拒否。生後3.5カ月に発症、GOT 317, GPT 332, HBs抗

原陽性、HBe抗体（±）であった。5カ月には GOT 43, GPT 29, HBs抗原陰性、HBe抗体陰性となった。症例②：第一子の時はHBe抗原陽性であり公費負担で予防したが、本患児の妊娠時にはHBe抗体陽性になっていたので産科医から予防は必要ないと説明を受けた。生後2.5カ月に発症、GOT 422, GPT 514, IgM型HBe抗体陽性であった。症例③：母親はHBe抗体陽性。予防は全く受けずに、生後3カ月にHBs抗原陽性、4カ月に GOT 1032, GPT 849, 黄疸出現。症例⑥：生下時に HBIG を一回投与されたが、生後6カ月にHBs抗原陽性、GOT 1048, GPT 864 になった。図には示していないが、12カ月ではHBs抗原陰性、HBs抗体陽性、GOT 57, GPT 33 と治癒していた。なお症例④⑤⑦⑧は、いずれも無症状であった。

〈考按〉当科関連7病院の小児科の例を対象として、HBe抗原陰性 HBV キャリア妊婦から出生した乳児の自然経過および予防成績を検討した。その結果、予防なしの23名では一過性HBs抗原陽性7名（3名がB型急性肝炎）を認めた。一方、予防を受けた150名では1名のみにB型急性肝炎を認めた。この1例は、HBグロブリンのみの投与を受けた例であり、HBワクチンの必要性を示している。また自然経過群と比べると、予防の有効性は明らかである。急性肝炎について cost-benefit を試算してみると、まずB型急性肝炎1例の医療費は、例えば症例⑥では入院費用（9日間）のみで130,460円であった。谷本らの自然経過の58例の検討では、3例がB型急性肝炎を発症している（5.2%）。

従ってHBe抗原陰性 HBV キャリア妊婦から出生した乳児の自然経過での急性肝炎の発生率を約5%と想定すると、HBワクチンは3回接種で約1万円であり、全例HBワクチンを接種した場合の方が、全く予防しなかった場合よりも医療費は一人につき約3,200円多くなる。しかしこの検討には、劇症肝炎の例は入っていない。急性肝炎の一部は劇症化して、その場合の医療費はさらに高額になること、貴重な生命を失う可能性があることを考慮すると全例予防することが望ましいと考える。

表1：母親がHBe抗原陰性例の予防の内訳

	HBe抗体 陽性	HBe抗体 陰性	計
予防なし	21名	2名	23名
HBIG 1回	63名	2名	65名
HBワクチン (±HBIG)	77名	5名	85名

表2：母親がHBe抗原陰性例の HBV 感染

	一過性 HBs抗原 対象乳児	B型 急性肝炎	GPT 上昇	
予防なし	23名	7名	3名	4名
HBIG 1回	65名	1名	1名	6名
HBワクチン (±HBIG)	85名	0名	0名	2名

〔協力病院〕

兵庫県立西宮病院、大阪府立母子総合保健医療センター、愛染橋病院、大阪府立病院、淀川キリスト教病院、耳原病院

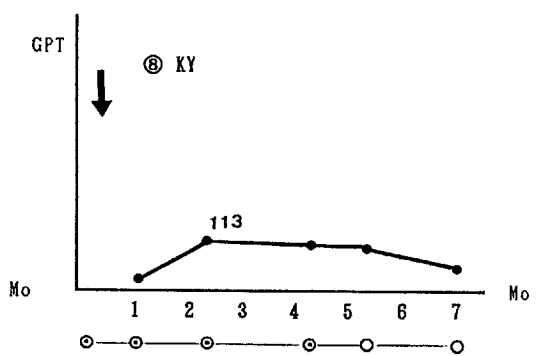
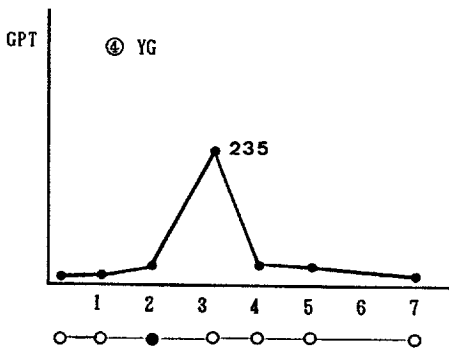
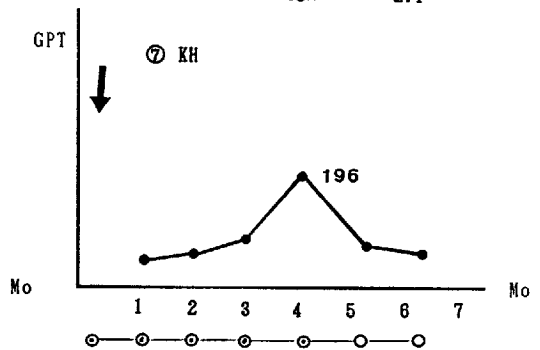
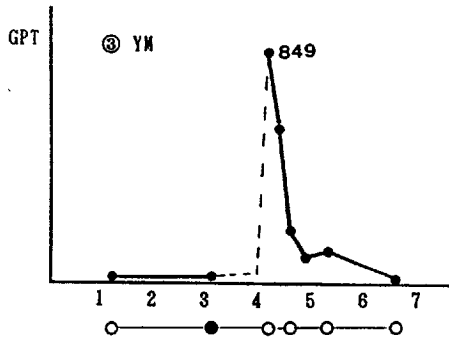
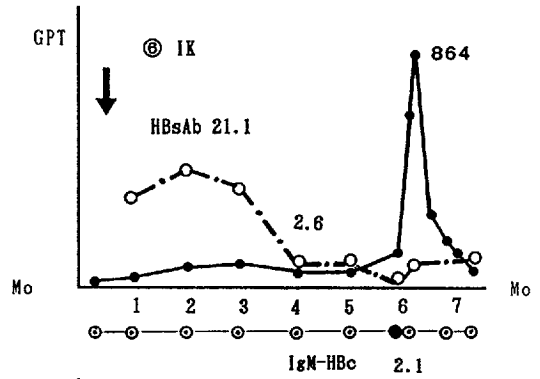
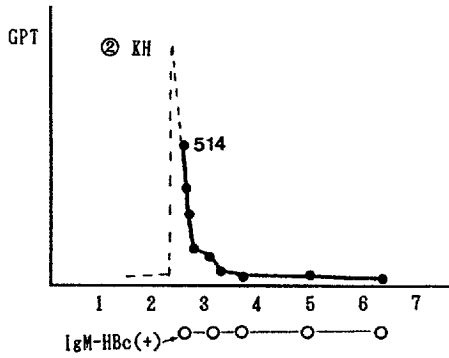
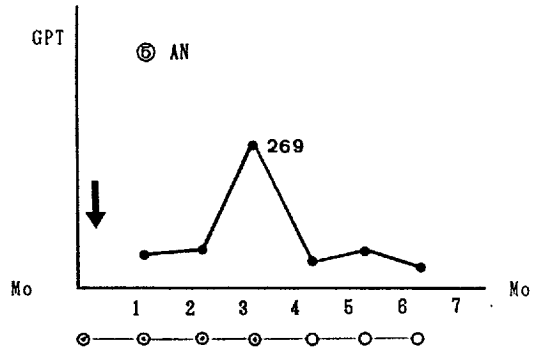
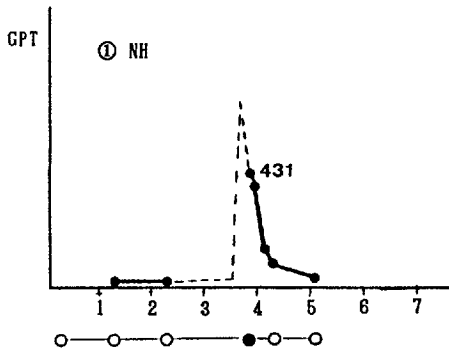
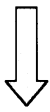


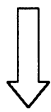
図. 肝機能異常を認めた8例  
(矢印はHBIG投与時を示す)

○ : HBs抗原 (-)、HBs抗体 (-)  
● : HBs抗原 (+)、HBs抗体 (-)  
◎ : HBs抗原 (-)、HBs抗体 (+)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 当科関連 7 病院の例を対象として、HBe 抗原陰性 HBV キャリア妊婦から出生した乳児の自然経過および予防成績を検討した。予防なしの 23 名では、一過性 HBs 抗原陽性 7 名 (3 名が B 型急性肝炎) を認めた。一方、何らかの予防を受けた 150 名では 1 名のみ B 型急性肝炎を認めた。この 1 例は、HB グロブリン一回投与を受けた例であり、HB ワクチンの必要性が示唆された。以上のように自然経過群と予防群とを比べると、予防の有効性は明らかであった。